



2023年4月号(No.14)
 公益社団法人 日本山岳会
 The Japanese Alpine Club
 東京都千代田区四番町5-4
<https://www.jac1.or.jp>

3カ月に一度発行する「山」YOUTH版では、YOUTH CLUB 世代の会員のご活躍、東京や各支部のYOUTH CLUBの取組みなどをご紹介していきます。話題のご提供や感想など、ご意見何でもお待ちしております!

【編集担当】
 松原尚之
 滝沢守生
 谷山宏典
 田島圭悟
 新井 梓

ジャルキャ・ヒマールへふたたび

2020年に関西支部隊が挑戦して登ることのできなかったジャルキャ・ヒマール(6,473m)。同隊にも参加していた関西支部の竹中雅幸らが、初登頂を目指し、3月末に日本を出発した。

ジャルキャ・ヒマールはマナスルを望みながら周遊するトレッキングコース、通称マナスル・サーキットに位置している。竹中雅幸(33)は、2020年春に関西支部の隊でこの未踏峰を目指したが、悪天候とメンバーの体調不良などにより、5,400mまでしか到達することができなかった。そのジャルキャ・ヒマールに、竹中ら4名が再び挑戦する。

隊長を務めるのは本会準会員でもある斎藤大乘(37)で、昨年同じマナスル・サーキットにある未踏峰サウラ・ヒマールに初登頂を果たした。今年もこのエリアで未踏峰に登りたいと考えた斎藤が選んだのがジャルキャ・ヒマールで、かつて竹中がこの山に挑戦したことがあるのを知り、斎藤は竹中に連絡をとった。2人は直接の面識はなかったが、どちらもヒマラヤ・キャンプのメンバーであった。斎藤は2018年にヒマラヤ・キャンプ隊でネパールのパンカール・ヒマールに初登頂している。竹中もまた2019年からヒマラヤ・キャンプに参加していたが、コロナと子供が生まれたことなどによって山には行けずにいた。竹中は斎藤とともにジャルキャ・ヒマール



未踏峰ジャルキャ・ヒマール6,473m

ルに再挑戦することを決めた。

パンカール・ヒマール隊のメンバーだった杉本龍郎(34)も隊に加わり、そしてこの冬63日間かけて単独で積雪期の北海道分水嶺縦断に成功し、植村直己冒険賞を受賞した野村良太(28・本会会員)が4人目のメンバーとして参加することになった。

2017年に奈良県川上村に移住し、地域密着型ガイドとして生計を立てている竹中は、結婚して2歳の娘がいるが、この先も数年に一度は海外の山に出かけたいと考えている。隊長の斎藤は本業が僧侶だが、礼文島と山梨の二拠点生活を送りながらポッカや山仕事で全国を飛び回っている。葦崎市在住の杉本、札幌市在住の野村もまた登山ガイドを仕事にしている。若くユニークなメンバーが集まった今春のジャルキャ・ヒマール隊。無事に初登頂を成功させることを心から願っている。(松原尚之)

【隊の名称】 ジャパン6Summit ジャルキャ・ヒマール登山隊2023

【登山期間】 2023年3月末～5月中旬(47日間)



八ヶ岳で合宿中のメンバー4名

日本の氷、カナダの氷 山田利行、日本の冬を登る

昨春カンチンナップ北西壁を初登攀し、秋にはマナスル、アマ・ダブラムに速攻スタイルで連続挑戦した山田利行(東海支部)。2014年からカナダで暮らし、カナディアン・ロッキーで登り続けてきた彼が、今冬は日本に生活の拠点を移し、日本の冬壁やアイスルートを登りまくっている。そんな山田トシにミニ・インタビューを試みた。

——カナダと比べて日本の山(ルート)の印象は？

山田 (以降、トシ) 日本はクライミングに行っても、雪さわっていることが多いから、半分“雪遊び”してるような感覚です。カナダって冬にクライミング行ってもあまり雪にさわらない。壁は登るけど、いわゆる冬山には登らないんです。カナダも夏は岩稜ルートがあるけど、冬は悪すぎて行かない。クライミングして頂上に立てるのは日本の冬山のよさですね。

——アイスクライミングはどうですか？

トシ 氷質はカナダの方がいいですね。日本は氷が多く、コンディションをつかむのが難しい印象です。カナダの氷は表面がぐさぐさでも中はしっかりしています。日本のアイスにはカナダのアイスとはまた違った意味での難しさがあると思います。それとスケールはカナダの方がでかく、ルート数も断然多い。アイスに関して言えばアプローチも近いことが多いです。日本はアイスルートの本数が限られているので、長く住んでいるとどうなのかなあ……？ でも米子不動はよかったです。ルートがまとまっているという意味ではカナダ以上だと思います。

——日本で印象に残ったルートはありますか？

トシ 谷川(一ノ倉沢)はよかったですね。行く前は負のイメージを持っていたけど、実際行ってみたら明るくて、気持ちのいいところだなあ、と。アプローチも近いし、下山も楽、壁もしっかり立ってるし。一ノ倉沢は雪崩地形ではあるけど、(見極めさえしっかりすれば)日本の方が雪は安定していると思います。カナダの方が雪崩は怖い。

——むちゃくちゃ登りまくってますが、いま生活はどうしているのですか？

トシ 月に10日ほど東京で窓拭きのアルバイトをして、あとの20日は北杜市を拠点にして登っています。

——今後の予定を教えてください。

トシ 4月初めにカナダに帰ります。カナダに自分のプロジェクトである未踏の壁があるので、4月いっぱいにはそれを行います。5月からはス



雄冬海岸「渚ブライダルベール」を登る
山田利行

コーミッシュに移動して、仕事とガイド試験のトレーニング。9月に日本に戻って、10月からネパールに行きます。3人のメンバーで未踏峰であるフォレ北壁(6,650m)に出かける予定です。11月中旬くらいにまた日本に帰国します。

(聞き手：松原尚之、田島圭悟)

【山田利行が今冬登った主なルート】

- 12月 稲子岳コップ状ルート、稲子岳左カンテールルート、甲斐駒・西坊主沢(1day)、明神2,263峰南壁
- 1月 錫杖岳P4ダイレクトルンゼ〜グラスホッパー〜本峰〜北尾根第一稜側壁、北海道 上ホロ・化け物岩、正面壁、北海道 神威岩(ドライツリーリング)、北海道 層雲峡プリンセス・ストーリー(2Pのドライツリーリングルート)、北海道 雄冬海岸・渚ブライダルベール、北海道 雷電海岸・ナイル
- 2月 谷川岳 一ノ倉沢・衝立岩中央稜、米子不動、谷川岳 一ノ倉沢・3ルンゼ
- 3月 笠ヶ岳 穴毛谷二の沢ドリユ状岩壁、唐沢岳幕岩・大凹角ルート(北杜市から1day往復)
※その他に八ヶ岳や御在所で数回ずつ登っているとのこと。

東京ユースチームと岐阜支部との交流山行

東京ユースチームと日本山岳会岐阜支部において、2月12日 蓼科山 参加19名、3月4日 谷川岳 参加17名の山行を行ったので、報告する。

今回の企画のきっかけは、最年少が40代であり続けた岐阜支部に20代の若者が2名入会したことから始まります。嬉しさと同時に、会の中で彼らの立ち位置をどのように作り上げるかという新しい悩みを抱えることになりました。その折、2022年12月に3年ぶりに行われた年次晩餐会・講演会における松原理事のユースチームの活動報告にて、全国の若手が定期的に交流を行っていることを知り、問題解決の糸口になるのではと感じました。

帰宅後早急にメールで連絡し、ユースの例会にオンラインで参加をいたしました。

若手で構成・運営が行われているユースの会合は活気に満ち溢れており、前向きな話題が多く新鮮な印象を受けました。楽しい雰囲気の中でありながら、挑戦心や向上心を感じ取ることでできる頼もしいメンバーです。お互いの計画を交換し、共同で実施できる企画についての検討をさせていただき、2月の蓼科山・3月の谷川岳のパイロット企画を組ませていただきました。

蓼科山では茅野駅でユースの皆さんをピックアップし、先発した岐阜チームを追いかける形で山行を開始。森林限界で合流し山頂を共に目指しました。天気は強風のため、山頂付近にはガスがかかり、強風を全身で感じることでありました。

八ヶ岳の展望を楽しむことは叶いませんでしたが、雪山らしい山行でした。鉛色の空が時折開け

て顔を出す青空と太陽を見たときには歓声も。風速15mほどの寒風の吹きすさぶ山頂で一時間ほど散策し、熱く記念撮影をし、帰りにこれまた熱いお風呂に入って解散となりました。

3月の谷川岳。上州の山だけあって、雪いっぱいで大興奮。しかしお天気は猛吹雪でした。

山頂に近づくにつれて猛烈な風とホワイトアウトに翻弄されました。肩の小屋に着いたときには視界は5m、風速は最高で20m/s程度。登頂を諦める登山者がほとんどの中、我々17名はトマの耳まで全員が登頂、記念撮影の後しばし歓談を楽しみ下山しました。

下りもホワイトアウトが続いたため、GPSの軌跡を頼りながらの下山。今回も山頂からの景色を堪能はできませんでしたが、荒天の山行の良い経験になり、思い出深い山行となりました。東京チームとは谷川岳で解散、岐阜チームは群馬支部で紹介の素敵な宿で一晩を過ごし、翌日快晴の上州武尊山に登り帰路につきました。

2回の山行を通して、全国組織であり、登山者の層と幅が厚い日本山岳会の利点を改めて感じました。今後も全国の素晴らしい仲間とのつながりを通して、素敵な山登りができればと思っています。今はオンラインで会議ができるため、距離を感じずに交流できるのはありがたいところ。今回のパイロットを活かし、令和05年度もユースチームや他支部との連携を深めて、広い視野にたつての活動につなげていきたいと考えております。松原理事、そしてユースの皆さん、この度はご協力まことにありがとうございました。

(岐阜支部・東明 裕)



真っ白な谷川岳で、うれしい登頂

ユースクラブ活動レポート

アイス&雪山安全講習を今年も開催（学生部）

2月7日（火）～9日（木）の3日間、学生部による「アイス&雪山安全講習」を今年も八ヶ岳で開催した。コロナの影響により昨年は中止、昨年もわずか2名だけの参加者とさびしかったが、今年は15名の参加者を得て、従来通りの規模で開催することができた。また日程も3日間に増やし、初日）アイス講習と「雪山を安全に登るために（机上）」、2日）雪崩講習、3日）ホワイトアウト・ナビゲーション実地研修という内容で行った。2日目の雪崩講習は雪崩に遭わないための地形や積雪の見極めをメインに、阿弥陀岳・中岳沢周辺にて実施した。この講習会で雪崩についてやるのは初めてだったが、雪崩について学んだことのない学生も多く、実施する意義を感じた。

アイスクライミングだけだった講習会に“雪山の安全”をテーマにした内容を組み入れたのは、2006

年、2015年と2回。同じ2月の阿弥陀岳で、大学山岳部による遭難事故が起きたことがきっかけである。学生たちがあのような事故を繰り返さないために、これからもこの講習を長く続けていこうと考えている。
（松原尚之）



美濃戸口でアイスクライミング講習を実施

菅平で雪崩講習を実施（ワンダーフォーゲル部）

例年実施している雪崩講習を、今年は菅平アリーナで実施した。昨年に続き、プロガイドの松本省二さんに教えていただいた。松本さんはAvSAR（日本雪崩捜索救助協議会）でも講師を務めている。

午前中は座学。雪崩死亡事故の実態と雪崩装備についての学習。AvSARでの最新の研究をもとにしたデータを見せていただきながら、雪崩リスクを知る。その後、隣の広場で実際に雪崩トランシーバー（ビーコン）を使い、サーチの流れを教えてください。ファインサーチに切り替えてからは焦らずスピードを落とすことや、プロービングで地面と埋めた衣類を区別することが難しい。

午後にはもっと雪の深い場所へ移動し、シナリオレスキューを実施した。それぞれがリーダー役となり、雪崩に遭ったパーティの捜索に入るという設定。最初は慣れなかったが、最後には10分以内

に4つのビーコンを掘り出すことができた。

もし実際に雪崩に遭遇したら、こんなに簡単に現場に近づいたり掘り出せないのかもしれない。しかし、山に入る仲間と心構えを共にし、さまざまな想定をしておくことは重要だと感じた。
（新井梓）



菅平アリーナ横で掘り出しの訓練

ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。

✉ jacml-yc@jac1.or.jp